

平成6年度

平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 1994

目 次

企 画 展	4
常 設 展 示	10
教 育 普 及	16
保 存 ・ 修 復	30
収 蔵 作 品	31
統 計	35
沿 革	38
組 織 ・ 運 営	39
美術館協議会	39
組 織	40
職 員 名 簿	40

企画展

鳥海青児展

会 期 平成6年4月9日(土)～5月8日(日)

主 催 平塚市美術館・「鳥海青児展」実行委員会・東京新聞

鳥海青児は、1902年平塚市に生まれた。22歳の学生時代に第2回春陽会に入選し画壇に頭角をあらわし、やがて本格的に絵画研究を志し、1930年にはパリに行き、さらにアルジェリアの風土に魅せられ多くの油彩画を描いた。その後スペインに渡り強くゴヤの影響を受け1933年に帰国。西欧で深めた造形思考を土台に、日本の風土に根ざした堅固な表現を求め、独自の絵画表現世界を切りひらいた。鳥海青児が求めた独創的絵画世界の確立に至る道のりを、岸田劉生、蔓鉄五郎に指導を受けていたフォービズムの初期代表作品「水無き川」から、自然の大地から受ける重厚なイメージを与える風景画、形を単純化し、対象の造形の性格を分厚いマチエールをともし象徴的表現に至る過程など、鳥海芸術の全貌がうかがえるよう油彩画120点、水彩、素描50点を一堂にあつめ展示した。



展覧会図録 大きさ 28.0×21.9cm 頁数 172頁

原田 実「鳥海青児の仕事について」

森本 孝「1936年頃の鳥海青児」

鈴木 幹「マチエールと日本人としての美意識」

石渡 尚「鳥海青児の鎌倉時代」

東 俊郎「ノートル・ダムと雑紳」

関 連 事 業 演 題：「鳥海青児を語る」

講 師：小野忠弘

講 演 会 日 時：平成6年4月17日(日) 午後2時

会 場：講堂

HIBINO SPECIAL 日比野克彦展

会 期 平成6年5月21日(土)～6月26日(日)

主 催 平塚市美術館

平成6年度芸術文化振興基金助成事業



80年代のグラフィック界で最も注目を集めた日比野克彦の全貌を、イラストレーション、デザインなどの商業美術から舞台美術、パフォーマンスなどのアートシーンに及ぶ多彩なジャンルにわたり幅広く集大成し、学生時代から現在に至るまでの作品200点以上によって紹介した。また美術館のアトリエにおいて作品の制作（アーティスト・イン・レジデンス）を行い、回顧展と同時に新作10点を展示した。本展は、同時代の若い世代の精神と文化を象徴する展覧会として多くの若い来館者の支持を得たといえるだろう。

そのほか、美術系大学の学生を中心とするボランティアを募り、平塚市内の住宅や商店に作品を設置したり、制作する“HIRATSUKA PROJECT”を実施、延べ400人以上のボランティアの参加を得て、来館者および平塚市民と美術の交流をはかるという大きな成果をあげた。さらに美術館として初めて芸術文化振興基金助成事業の申請を行い、助成を受けた。

展覧会図録 大きさ 29.7×22.5cm 頁数 132頁

日比野克彦「究極的実在」

タナカノリュキ「誰も語らなかった日比野克彦論」

小松崎拓男「日比野克彦の位置・美術の状況から」

平林 恵「日比野克彦年譜」

中島理壽「日比野克彦文献目録」

Katsuhiko Hibino, The Ultimate Reality

Noriyuki Tanaka, Untold Hibino World

Takuo Komatsuzaki, Katsuhiko Hibino Place in the Art World

関 連 事 業

1 HIRATSUKA PROJECT (本文参照)

2 日比野克彦によるアーティストトーク

日時 平成6年6月18日(土)

第1回午後2時・第2回午後3時

会場 講堂



華と祈り 近藤弘明展

会 期 平成6年8月13日(土)～9月11日(日)

主 催 平塚市美術館・読売新聞社

近藤弘明は1924年、東京、下谷の天台宗正宝院に生まれた。東京美術学校日本画科で山本丘人に師事。同校卒業後、師丘人が日本画の革新を目指して創設に加わった〈創造美術〉へ出品して頭角を現した。〈創造美術〉はやがて新制作協会と合併してその日本画部となり、さらに創画会へと変わったが、近藤弘明は、これらの会に独特の幻想的作品を発表し続け、異色の日本画家として確固たる評価を得るに至った。

異形の花が咲き乱れ、蝶が舞い、清らかな光に満ちた浄土を思わせる独自の神秘的な画面は、仏教的な想念に貫かれ、深く静謐な精神性をたたえている。また、近年の作品は、明るさと透明感を増し、いっそう優美な世界を創り出している。

本展では、美術学校在学中の作品から最近作までの日本画64点とエッチング10点、合わせて74点の代表作によりひとすじに自己の絵画表現を追求し、日本画の世界に異彩を放つ近藤弘明の芸術の全貌を紹介した。



展覧会図録 大きさ 29.7×22.8cm 頁数 103頁

原田 実「近藤弘明さんの芸術の歩み」

岡部幹彦

「異形と自然—近藤弘明氏の幻想画について」

近藤弘明「浄化する力」

関連事業 ビデオ放映「日本画家 近藤弘明」講堂

ドイツ表現主義の版画展

近代版画の革命

会 期 平成6年9月23日(土)～10月16日(日)

主 催 平塚市美術館・読売新聞社・美術館連絡協議会

協 賛 花王株式会社

20世紀初頭、ドイツを中心に起こった表現主義の運動は、内面の表現を重んじ、人間の本質に鋭いまなざしを向けるものであった。その多岐にわたる展開は、ヨーロッパ近代芸術運動のなかでも異彩を放つものである。とりわけ版画では、長い間忘れられていた木版画が復興され、中世美術や原始美術を思わせる素朴で力強い表現がうみだされた。それはまた近代の抽象表現の誕生にも連なっていくものであった。

本展では、「ブリュッケ」など第一次世界大戦前の代表的な芸術家グループから、戦争の悲劇や敗戦後の社会の矛盾を告発した戦後の「新即物主義」の画家たちにいたる総計29作家176点の作品を、次の5つのセクションにわけ展示し、ヨーロッパ版画史上一時代を画したドイツ表現主義の版画芸術を紹介した。

- 1 「ブリュッケ（橋）」とその周辺
- 2 「ブラウエ・ライター（青い騎手）」とその周辺
- 3 北方の表現主義
- 4 ウィーンの表現主義
- 5 都市の表現主義

展覧会図録 大きさ 25.8×15.2cm 頁数 149頁

前田富士男「ドイツ表現主義における表現

—転換期の美術と思想をめぐって—

水沢 勉「小さな証言者

—杉浦非水・田代六郎・シュタイン作木版画について—

佐藤幸宏「ドイツ表現主義と日本

—招来作品をめぐるドキュメント—



宮崎進展

会 期 平成6年10月29日(土)～12月4日(日)

主 催 平塚市美術館・宮崎進展実行委員会

会 場 企画展示室Ⅰ 全室および企画展示室Ⅱの一部
ならびに2階ロビー

日本の現代の洋画界を代表する画家宮崎進(1922～)の画業全体を、初期作から近作までと、最新作の二部構成として、油彩60点、ドローイング17点、水彩・コラージュ6点、デッサン12点の計95点を展示した。

展示に際しては、シベリア抑留体験を直接に題材にした1950年代前半の作品群を「虜」、東北・北陸の放浪から生み出された1950年代後半を「さいはて」、1966年の安井賞受賞作「見世物芸人」を中心とする作品群を「旅芸人」、1970年代のバリ体験をもとにした作品群を「裏町」、色面での抽象形へと移行し、コラージュ技法が前面に現れてくる1980年代を「冬の光」、そして1990年以降の作品群を「Power Figure」として展示構成した。また、現在の作品群にも「虜」シリーズに共通する人間存在そのものへの深い洞察が一貫していることを示すため、「虜」「さいはて」に対面する位置に「Power Figure」を展示した。

本展をつうじ、近年とみに多彩な展開を示しながら、その根底に自らの生の証としての表現を探り続ける宮崎進の芸術世界を余すところなく展観した。

SHIN MIYAZAKI



SHIN MIYAZAKI 1922-1990
OIL, PASTEL, AND PENCIL ON PAPER
1980-1990
1980-1990
1980-1990

展覧会図録 大きさ 28.0×22.2cm 頁数 160頁

林紀一郎「宮崎進の新しい仕事

—未見の“私”との出会い—

安井収蔵「生きる歓びと哀しみ

—鎌倉、比企谷に宮崎進さんを訪ねて—

岡部幹彦「しなやかで確かなメッセージ

—1980年以前の作品をめぐる—

濱本 聡「宮崎進—透徹する眼差し—

関連事業 講演会 講師 宮崎進(ききて：当館学芸員)

演 題：宮崎進—自作を語る

日 時：平成6年11月13日(日) 午後2時

会 場：講 堂

ビデオ放映「宮崎進—静かなる魂の告白」講堂

「洋画家 宮崎進」

”

オランダ／ファン・アッペ美術館所蔵

変貌する20世紀絵画

会 期 平成7年1月7日(土)～2月12日(日)

主 催 平塚市美術館・東京新聞

後 援 オランダ大使館

協 力 日本航空

オランダのアイントフォーヘン市にあるファン・アッペ美術館は、オランダ国内はもとより、ヨーロッパでも早くから同時代の美術を収集する美術館として知られ、優れたコレクションを築いてきた。この展覧会は、これまで日本で紹介される機会のなかった同館の貴重な絵画コレクションによって、20世紀の美術の流れをたどったものである。

作品の展示は、《20世紀の諸傾向》《幾何学的抽象の世界》《戦後のヨーロッパ》《戦後のアメリカ》《70年以降の動向》の各セクションに分け、ピカソらのキュビズム、表現主義、ロシア構成主義、モンドリアンなどによる幾何学的抽象、そのほかヨーロッパの前衛運動、アメリカの抽象表現主義などが、出来るだけわかりやすく概観できるように配慮した。

またパーソナル・コンピュータによる一般来館者と子供用の2通りのクイズ形式の展覧会解説を公立美術館の展覧会としては初めて設置、来館者が自由に操作できるような試みを行い、好評を得た。

展覧会図録 大きさ 29.0×23.0cm 頁数 172頁

ヤン・デバウト「序文」

「作家解説」(翻訳 有川幾夫・小松崎拓男ほか)

「用語解説」(執筆 佐藤友哉・速水豊ほか)

関 連 事 業 講演会 演 題:

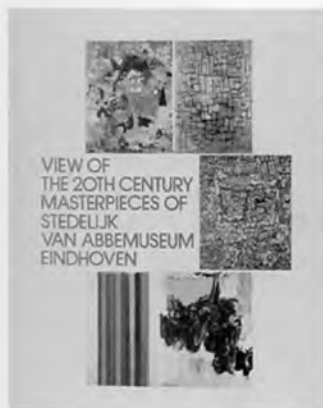
「20世紀絵画とファン・アッペ美術館コレクション」

講 師: ヤープ・フルデモンド

(ファン・アッペ美術館キュレーター)

日 時: 平成7年2月12日(日) 午後2時

会 場: 講堂



常設展示

常設展示は当館の所蔵作品がよりよい状態で鑑賞ができるようにしている。当館の収集の基本方針にうたわれている「湘南の美術・光」のテーマにそって収集した、湘南ゆかりの優れた作家の作品を系統的に展示し、この地域に関わる芸術の豊かな香をより多くの方々とともに味わってゆこうとするものである。作品の保存を考慮しつつ公開し、常設をより新鮮で魅力ある展示にするための工夫をこらし、今年は展示替えを合計5回おこなった。

第1回常設展示出品目録

7月7日～9月4日

■洋画

NO	作者名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法
1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
2	黒田 清輝	由比ヶ浜	1987	油彩・板
3	萬 鐵五郎	海景習作	1909頃	油彩・板
4	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
5	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
6	岸田 劉生	Fの肖像	1914	油彩・キャンバス
7	岸田 劉生	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
8	椿 貞雄	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
9	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
10	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
11	椿 貞雄	アンドレ	1932	油彩・キャンバス
12	椿 貞雄	糟谷夫人像	1944	油彩・キャンバス
13	椿 貞雄	婦人像（妻隆子像）		油彩・キャンバス
14	椿 貞雄	自画像		油彩・キャンバス
15	椿 貞雄	晴子像		油彩・キャンバス
16	萬 鐵五郎	羅布かづく人	1924	木版・紙
17	萬 鐵五郎	住吉神社風景	1909頃	油彩・板
18	萬 鐵五郎	砂丘風景	1924	油彩・キャンバス
19	萬 鐵五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
20	萬 鐵五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
21	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス
22	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
23	原 精一	女の顔（陳少姐）	1942	油彩・キャンバス
24	原 精一	静物（たまごのある）	1956	油彩・キャンバス
25	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
26	原 精一	I先生肖像	1956	油彩・キャンバス
27	井上 三綱	駆け出した牛	1956	油彩・キャンバス
28	井上 三綱	仕事する女達	1957	油彩・キャンバス
29	木内 克	手のあるトルソ	1958	ブロンズ
30	安田 靱彦	宇治合戦図	1905	絹本・着彩
31	安田 靱彦	相撲の節	1907頃	絹本・着彩
32	安田 靱彦	稚児文殊	1912頃	絹本・着彩
33	安田 靱彦	日食	1925	絹本・着彩
34	安田 靱彦	宮本二天像	1933	絹本・着彩

■彫刻

■日本画

■写真

NO	作者名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法
35	安田 毅彦	菅公幼少図	1933頃	絹本・着彩
36	安田 毅彦	孔子観河		絹本・着彩 〔撮影年・撮影地〕
37	濱谷 浩	学芸諸家 安田 毅彦		1970 大磯
38	濱谷 浩	学芸諸家 藤田 嗣治		1937 東京
39	濱谷 浩	学芸諸家 上村 松園		1944 京都
40	濱谷 浩	学芸諸家 河井寛次郎		1944 京都
41	濱谷 浩	学芸諸家 会津 八一		1950 新潟県
42	濱谷 浩	学芸諸家 高村光太郎		1949 岩手県
43	濱谷 浩	学芸諸家 小林 古径		1949 東京
44	濱谷 浩	学芸諸家 安井曾太郎		1949 湯河原
45	濱谷 浩	学芸諸家 棟方 志功		1951 新潟県
46	濱谷 浩	学芸諸家 木村 莊八		1951 東京
47	濱谷 浩	学芸諸家 矢代 幸雄		1952 大磯
48	濱谷 浩	学芸諸家 三岸 節子		1952 東京
49	濱谷 浩	学芸諸家 前田 青邨		1953 鎌倉
50	濱谷 浩	学芸諸家 小林 秀雄		1955 鎌倉
51	濱谷 浩	学芸諸家 鈴木 大拙		1944 鎌倉
52	濱谷 浩	学芸諸家 堀口 大学		1946 新潟県
53	濱谷 浩	学芸諸家 三好 達治		1948 福井県
54	濱谷 浩	学芸諸家 高橋誠一郎		1952 大磯
55	濱谷 浩	学芸諸家 獅子 文六		1955 大磯
56	濱谷 浩	学芸諸家 川端 康成		1956 鎌倉
57	濱谷 浩	学芸諸家 開高 健		1982 茅ヶ崎
58	濱谷 浩	敗戦の日の太陽		1945 新潟
59	濱谷 浩	戦災で渡道、開拓地に移った家族		1957 北海道
60	濱谷 浩	田植女		1955 新潟
61	濱谷 浩	米倉庫		1960 タイ 〔技 法〕

■洋画

62	鳥海 青児	石だたみ	1962	油彩・キャンバス
63	鳥海 青児	静物	1926	油彩・キャンバス
64	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
65	鳥海 青児	裸婦	1928	油彩・キャンバス
66	鳥海 青児	シベリヤ駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
67	鳥海 青児	グーベルヌマン広場	1932	油彩・キャンバス
68	鳥海 青児	アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
69	鳥海 青児	オランダ風景	1932	油彩・ボード
70	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
71	鳥海 青児	石橋のある風景	1937	油彩・キャンバス
72	鳥海 青児	北京天壇	1941	油彩・キャンバス
73	鳥海 青児	蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
74	鳥海 青児	沖縄風景	1940	油彩・キャンバス
75	鳥海 青児	アカシア	1941	油彩・キャンバス
76	鳥海 青児	段々畑	1952	油彩・キャンバス
77	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス
78	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
79	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
80	鳥海 青児	道化	1939	油彩・キャンバス
81	鳥海 青児	男像	1942	油彩・キャンバス

NO	作者名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法
82	鳥海 青児	裸婦	1928頃	油彩・キャンバス
83	鳥海 青児	シベリヤの駅路	1930	鉛筆・紙
84	鳥海 青児	アルゼリー女	1931頃	鉛筆・紙
85	鳥海 青児	アルジェリア	1931	鉛筆・紙
86	鳥海 青児	闘牛	1958頃	コンテ・紙
87	鳥海 青児	サーカスの女	1932	インク・紙
88	鳥海 青児	信州の畠	1936頃	鉛筆・紙
89	鳥海 青児	天壇	1939	鉛筆・紙
90	鳥海 青児	うずくまる	1954	鉛筆・紙
91	鳥海 青児	石をかつぐ人	1958	鉛筆・紙
92	鳥海 青児	スフィンクス	1960	鉛筆・紙
93	鳥海 青児	インドエローラ石像	1960頃	鉛筆・紙
94	鳥海 青児	インカの遺跡	1961	鉛筆・紙
95	鳥海 青児	自画像	1929	コンテ・紙
96	鳥海 青児	川沿いの家	1954	油彩・キャンバス
97	鳥海 青児	二重橋	1956	油彩・キャンバス
98	鳥海 青児	壁の修理	1959	油彩・キャンバス
99	鳥海 青児	果汁を吸うマヤ人	1964	油彩・キャンバス
100	鳥海 青児	フラメンコ	1972	油彩・キャンバス

第2回常設展示出品目録

9月6日～10月23日

※第1回展と同じ、日本画のみ展示替えを行った。

NO	作者名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法
30	工藤 甲人	愉しき仲間 (二)	1951	紙本・着彩
31	工藤 甲人	愉しき仲間 (一)	1951	紙本・着彩
32	工藤 甲人	樹木のうた	1956	紙本・着彩
33	工藤 甲人	蝶の階段	1967	紙本・着彩
34	工藤 甲人	次郎雲	1970	紙本・着彩
35	工藤 甲人	杉	1983	紙本・着彩
36	工藤 甲人	残像図	1986	紙本・着彩
37	工藤 甲人	わが壁に	1985	紙本・着彩

■日本画

第3回常設展示出品目録

10月25日～12月11日

NO	作者名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法
1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
2	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
3	萬 鐵五郎	住吉神社風景	1909頃	油彩・板
4	萬 鐵五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
5	萬 鐵五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
6	萬 鐵五郎	静物	1926	油彩・キャンバス
7	岸田 劉生	Aの肖像	1913.7.8	油彩・キャンバス
8	岸田 劉生	F氏像	1914.5.30	油彩・キャンバス
9	岸田 劉生	石垣ある道 (鶴沼風景)	1921	油彩・キャンバス
10	中川 一政	椅子の女	1941	油彩・キャンバス

■洋画

NO	作者名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法
11	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
12	木村 莊八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
13	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス
14	椿 貞雄	鵠沼風景	1921.8	油彩・キャンバス
15	椿 貞雄	菊子坐像	1922.1.20	油彩・キャンバス
16	井上 三綱	馬を御す	1949.10	油彩・キャンバス
17	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
18	朝井閑右衛門	廃園に於て	1926	油彩・キャンバス
19	朝井閑右衛門	悪霊と道化	1972	油彩・紙
20	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
21	鳥海 青児	静物	1926	油彩・板
22	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
23	鳥海 青児	蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
24	鳥海 青児	シルクの馬(サーカスの馬)	1954	油彩・キャンバス
25	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
26	鳥海 青児	壁の修理	1959	油彩・キャンバス
27	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
28	鳥海 青児	木心の出た法隆寺塑像	1967	油彩・キャンバス
29	森田 勝	風景	1929頃	油彩・キャンバス
30	森田 勝	女の顔(女)	1933頃	油彩・キャンバス
31	三岸 節子	インカの壺(太陽讃歌)	1968	油彩・キャンバス
32	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス
33	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
34	原 精一	黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
35	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
36	原 精一	椅子にかける裸婦	1960	油彩・キャンバス
37	原 精一	女達	1963	油彩・キャンバス
38	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
39	島田 しづ	時潮	1992	水彩・ボード
40	二見 利節	男鹿の景	1941頃	油彩・キャンバス
41	国領 経郎	海景	1968	油彩・キャンバス
42	島田 章三	エウローペ	1968	油彩・キャンバス
43	奥谷 博	地	1986	油彩・キャンバス
44	横山 大観	不盡乃高嶺	1915	絹本着彩
45	下村 観山	竹林之図	不詳	絹本水墨
46	今村 紫紅	瀧	1915	紙本着彩
47	安田 靱彦	寒香留古春	1920	絹本着彩
48	安田 靱彦	楠公	1930-40年代	絹本着彩
49	山本 丘人	入江	1954	絹本着彩
50	北沢 映月	女人世	1972	紙本着彩
51	工藤 甲人	蝶の階段	1967	紙本着彩
52	工藤 甲人	残像図	1986	紙本着彩
53	近藤 弘明	寂詔苑	1982	紙本着彩
54	木内 克	手のあるトルソ	1958	ブロンズ

■日本画

■彫刻

第4回常設展示出品目録

12月13日～2月19日

※第3回展と同じ、日本画のみ展示替えを行った。

■日本画

NO	作者名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法
43	榊原 文翠	鷹野之図	明治初期	紙本着彩
44	川端 玉章	佐野常世	不祥	紙本着彩
45	安田 靱彦	相撲の節	1907頃	紙本着彩
46	安田 靱彦	稚児文殊	1912頃	紙本着彩
47	安田 靱彦	菅公幼少の図	1939頃	紙本着彩
48	吉川 朝衣	早春	不祥	紙本着彩
49	工藤 甲人	樹木のうた	1956	紙本着彩
50	工藤 甲人	夢と覚醒	1971	紙本着彩
51	工藤 甲人	わが壁に	1985	紙本着彩

第5回常設展示出品目録

2月22日～（1995年7月3日）

■洋画

1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
2	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
3	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
4	小糸源太郎	早春	1942	油彩・キャンバス
5	椿 貞雄	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
6	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
7	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
8	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
9	岸田 劉生	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
10	萬 鐵五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
11	萬 鐵五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
12	萬 鐵五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
13	萬 鐵五郎	羅布かづく人	1924	木版・紙
14	萬 鐵五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
15	林 倭衛	白い橋と緑樹	1921-26	油彩・キャンバス
16	山本 鼎	箱根連峰から国府津海浜を望む	1936	油彩・キャンバス
17	森田 勝	矢車草	1928	油彩・キャンバス
18	森田 勝	風景	1929頃	油彩・キャンバス
19	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
20	山下大五郎	早春	1941	油彩・キャンバス
21	木村 荘八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
22	島田 章三	エウローペ	1968	油彩・キャンバス
23	三岸 節子	インカの壺	1968	油彩・キャンバス
24	中村 琢二	うたい	1965	油彩・キャンバス
25	中村 琢二	南伊豆	1984	油彩・キャンバス
26	朝井閑右衛門	廃園に於て	1926	油彩・キャンバス
27	朝井閑右衛門	悪霊と道化	1972	油彩・板
28	原 精一	静物		油彩・キャンバス
29	原 精一	男(座像)		油彩・キャンバス
30	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
31	原 精一	I先生肖像		油彩・キャンバス
32	原 精一	女達	1963	油彩・キャンバス
33	井上 三綱	馬を御す	1949	油彩・キャンバス
34	井上 三綱	駆け出した牛	1956	油彩・キャンバス
35	井上 三綱	風の中の牛	1966	墨・紙

NO	作者名	作 品 名	制作年	材 質・技 法
36	井上 三綱	泰山石刻	1972	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	札幌郊外		油彩・キャンバス
38	鳥海 青児	椅子にかける裸婦		油彩・キャンバス
39	鳥海 青児	風景		油彩・キャンバス
40	鳥海 青児	椅子にかける男		油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	ピカドール		油彩・キャンバス
42	鳥海 青児	石をかつぐ		油彩・キャンバス
43	鳥海 青児	天津のフランス寺院	1942	油彩・キャンバス
44	鳥海 青児	段々畑	1952	油彩・キャンバス
45	鳥海 青児	狸穴の森	1954	油彩・キャンバス
46	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス
47	鳥海 青児	伊賀瓶子とメロン	1957	油彩・キャンバス
48	鳥海 青児	根来瓶子と果物	1971	油彩・キャンバス
49	鳥海 青児	メキシコの西瓜	1961	油彩・キャンバス
50	鳥海 青児	木心の出た法隆寺塑像	1967	油彩・キャンバス
51	鳥海 青児	はにわ	1959	油彩・キャンバス
52	鳥海 青児	スペイン風景	1959	油彩・キャンバス
53	本荘 起	療養所のある丘	1988	油彩・キャンバス
54	本荘 起	丹沢山塊	1990	油彩・キャンバス
55	本荘 起	坂道	1982	油彩・キャンバス
56	本荘 起	津久井湖	1980	油彩・キャンバス
57	本荘 起	建てる	1982	油彩・キャンバス
58	北沢 映月	女人卍	1972	紙本・着色
59	近藤 弘明	寂詔苑	1982	紙本・着色
60	工藤 甲人	杉	1983	紙本・着色
61	工藤 甲人	相	1984	紙本・着色
				〔撮影年・撮影地〕
62	濱谷 浩	学芸諸家 堀口大学	1946	新潟県
63	濱谷 浩	学芸諸家 三好達治	1948	福井県
64	濱谷 浩	学芸諸家 安井曾太郎	1949	湯河原
65	濱谷 浩	学芸諸家 高村光太郎	1949	岩手県
66	濱谷 浩	学芸諸家 小林古径	1949	東京
67	濱谷 浩	学芸諸家 棟方志功	1951	新潟県
68	濱谷 浩	学芸諸家 矢代幸雄	1952	大磯
69	濱谷 浩	学芸諸家 木村荘八	1951	東京
70	濱谷 浩	学芸諸家 三岸節子	1952	東京
71	濱谷 浩	学芸諸家 高橋誠一郎	1952	大磯
72	濱谷 浩	学芸諸家 前田青邨	1953	鎌倉
73	濱谷 浩	学芸諸家 小林秀雄	1955	鎌倉
74	濱谷 浩	学芸諸家 川端康成	1956	鎌倉
75	濱谷 浩	学芸諸家 獅子文六	1955	大磯
76	濱谷 浩	学芸諸家 安田靫彦	1970	大磯
77	濱谷 浩	学芸諸家 開高健	1982	茅ヶ崎
				〔材 質・技 法〕
78	木内 克	手のあるトルソ	1958	ブロンズ
79	土井 俊泰	作品Ⅰ		油彩・キャンバス
80	土井 俊泰	作品Ⅱ		油彩・キャンバス
81	大貫 達雄	山峡		水彩・紙
82	蓑島 義一	双頭魚		油彩・木

■日本画

■写真

■彫刻

■寄贈作品

教育普及

素材&表現のパレット

資料展示 青のコレクション

開催日時 10月8日(土)～12月4日(日)

毎週(金)(土)(日) 13:00～16:50 延べ26日開催

開催場所 アトリエA

観覧者数 およそ1,800人

青い色をテーマ組み立てられたワークショップの開催期間中、アトリエAで関連する資料を展示した。ワークショップへの参加だけではなく、これらの資料に参加者が親しく触れることにより、その理解に広がり加わることが期待できるからである。この資料展示はワークショップ参加者をはじめ、一般の来館者にも公開された。

今回は、藍染の布や青いガラス、絵具などに関連する写真や実物資料を中心に展示された。

展示資料

〔ガラス〕

- ・アンティークガラス板(ブルー) 65×65cm程度 4枚(御任弘彦)
- ・円形吹きガラス板 30枚(御任弘彦)
- ・平塚市で出土したガラス製品(平塚市教育委員会・平塚市博物館)
- ・ガラスのビーズ(平塚市教育委員会・平塚市博物館)

〔藍染〕

- ・藍染の布(古庄輝亘)
- ・藍染衣類(平塚市博物館)
- ・藍の墨で書いた書
- ・藍玉、すくも
- ・青岱墨 3本

〔青い絵具〕

- ・絵具原石(ラピスラズリ・アズライト・ソーダライト・トルコ石)
- ・新岩絵具
- ・青い絵具(顔料、チューブ)

〔浮世絵版画〕

- ・絵具塗り見本
- ・刷毛など
- ・紙

- ・ばれんの材料(菊英ばれん工房)

〔フレスコ画〕

- ・フレスコ画見本(大野彩)
- ・フレスコ画写真

〔プルシャンブルー〕

- ・顔料
- ・プルシャンブルーのできるまで(イラスト)

〔図書資料〕 15冊

- 〔ワークショップテキスト〕
- ・プルシャンブルーをつくる
- ・フレスコ画を描く
- ・ガラスのオブジェをつくる



素材&表現のパレット

ワークショップ 藍色(ジャパンプルー)のタペストリー

—糸を染める+織る—

講師 大山 彬 (多摩美術大学染織デザイン科助手)

アシスタント 山田悦子

開催日時 8月6日(土) 10月7日(金) 10月9日(日)

10:00~16:30

対象・定員 高校生以上 20名

会場 美術館アトリエ・川崎市伝統工芸館

8月に藍の生葉で絹糸を水色を染め、10月に『すくも』で木綿の糸を濃淡のある青に染めました。さまざまな表情をみせる藍色の糸で小さなタペストリーをつくりました。

藍の生葉は春、種をまいて育てたものをこのワークショップと「ふらっとワークショップ藍の葉っぱで染める」の両方で使用しました。藍の生葉は簡単に染めることができますが、水色のみでいわゆる藍染の濃紺ではありません。また、日光堅牢度も低いといわれています。

『すくも』で染める本藍染は、藍瓶などの設備があり、本藍染が体験できる川崎市伝統工芸館でおこないました。本藍染は藍をアルカリ溶液の中で発酵させた中に布を浸け、空気にさらし発色させるという独特の方法をとります。染液につける回数が増えれば増えるほど、濃い藍色に染まってゆきます。

生葉染と本藍染で薄い藍色から濃紺まで10色あまりの糸ができました。



8/6 午前 藍の生葉を刈り取る

藍の生葉で絹糸を染める

- ・ミキサーを使い葉を細かくジュース状にして染める
- ・包丁で葉をみじん切りにする

午後 みじん切りにした葉で染める

10/7 午前 講義

午後 川崎市伝統工芸館にて、絹糸を染める

10/9 藍色のタペストリーをつくる



素材&表現のパレット

ふらっとワークショップ 藍の葉っぱで染める

—たたいて、うつして、染めるカタチと色—

リーダー 山田悦子 森本尚子他

開催日時 8月7日(日) 11日(木) 14日(日)

午前10:00~15:00の間 申し込み不要

会場 美術館前庭

対象 こどもからおとなまで

藍の葉は、春に種をまいて育ててきたものを、開催日の朝、毎回刈り取って使用しました。

染める方法は2種類で、ひとつは、藍の生葉を木づちでたたき、絹のハンカチに葉脈や葉の形を写して染め付ける方法。もうひとつはミキサーに生葉と水を入れて、葉を細かく砕いた藍の液に絹のハンカチを浸して染める方法です。藍の液温が上がらないように、液には氷をつめたペットボトルを入れておきました。液はあまり長くおいておくと酸化して黒ずんでくるため、なるべく30~40分程度の間に使い切るようにしました。

屋外でテントをたてて開催していたせいか、毎日こどもから大人まで100人あまりの参加者があり、大盛況でした。



○藍を育てる（藍の種は徳島市「藍の館」より入手）

4月末 苗床へ種をまく

5月連休明け 苗床から畑へ移植

※肥料は油かすを1回。液体肥料を月に1回程度

6月 虫が大発生

※虫の大発生によりやむ終えず殺虫剤を散布

7月末 染めのテスト

※雨の様子を見ながら最低週1回の早朝水やり

8月初旬 葉が大きく成長

8月中旬 穂がでるのではと心配したが穂がでてきたのは8月下旬

11月頃 種を採取→乾燥

* 密集して植えすぎたため、虫が発生し、発育も良くなかった

8月7日(日)晴 ワークショップ たたいて、うつす方法のみおこなう

11日(木)晴 ワークショップ たたいて、うつす&浸染をおこなう

14日(日)晴 ワークショップ 浸染&たたいて、うつすをおこなう

素材&表現のパレット

ワークショップ 浮世絵版画の魅力を語る

— 藍とべろ藍の不思議なブルー —

講師 勝原伸也（版画家）

アシスタント 山田りえ

開催日時 10月15日(土) 13:00~16:30

16日(日) 10:00~16:30

会場 アトリエB・研修室

対象・定員 高校生以上 20名

初日は、本物の浮世絵版画を間近で鑑賞し、絵具や紙などの素材と浮世絵版画の技法について講義をおこないました。また、絵具の中ではべろ藍（プルシャンブルー）と藍についても触れました。浮世絵版画を手にとってみられる 기회はほとんどないので、貴重な体験となりました。

2日目には、講師が制作した浮世絵の版木で摺りの実演をおこないました。墨で黒い輪郭線を摺り、べろ藍（プルシャンブルー）で空を摺りました。その後参加者は、簡単な模様を彫り、版が完成したら、ばれんを使って和紙（奉書）に摺りました。

また、この日はばれん職人の後藤英彦さんに、「ばれん」の話と制作工程の一部を実演していただきました。



1日 午後 講義「彫り・刷りの技術からみた浮世絵」

浮世絵の鑑賞

2日 午前 講義と摺りの実演

ばれんの話

午後 制作



素材&表現のパレット

ワークショップ フレスコ画

—青い顔料で壁に描く—

講師 大野 彩（武蔵野美術短期大学講師）
島津 洋（造形作家）

開催日時 10月29日(土) 30日(日) 11月5日(土) 6日(日) 全4日
10:00~16:30

会場 美術館駐輪場・アトリエ

対象・定員 高校生以上・21名

描いた場所 美術館駐車場壁 45cm×15m

システィナ礼拝堂の天井画はミケランジェロが描いたフレスコ画としてよく知られています。フレスコ画は最も古い絵画技法のひとつで、壁をつくり、下地を塗り、顔料を水で溶いて絵を描きます。フレスコ画を描くには、壁が絵具を吸い込む限られた時間内で制作しなくてはなりません。

一人あたり45×70cmの壁面（美術館駐輪場壁）が割り当てられ、2色の下地（青・赤茶・白から2色を選ぶ）で作品を制作しました。絵具は、主に天然の土系顔料と青い顔料が使われました。下絵を壁に写したり、壁を塗る下準備に多くの時間を費やし、フレスコ画を実際描くことのできた日は半日ずつの2日間だけでした。描画はいったん始めたら途中でやめることができないので、夜までかかった人もいました。



8月末 砂洗い12袋 石灰クリームづくり

9月1日 壁にアングル取付 セメントボード取付 ベースコート塗布
下地（二層）づくり

10/29 午前 講義とスライド「フレスコ画について」

午後 下図制作 実物大で制作

10/30 午前 中塗り

午後 線香で下図に穴をあける

壁に下図をあて、顔料を上からはたき、壁に下図の輪郭を写す

11/5 午前 モルタル塗り

午後 描画

11/6 午前 モルタル塗り

午後 描画

素材&表現のパレット

子どものワークショップ 鳥の巣トンネル

ーアオアズマヤドリのおおきな家ー

講師 加茂 博（造形作家）

高橋万弥（アトリエMIU主宰）

リーダー 諏訪功一郎、田中りり子他

開催日時 11月12日(土) 13日(日) 9:30~16:30

会場 美術館前庭・アトリエ

対象・定員 小学校1年生~6年生・24名

オーストラリアに住むアオアズマヤドリはたくさんの青いモノを集めて自分の巣を飾ります。

参加したこどもたちがアオアズマヤドリになったつもりで、大きなトンネル型の巣を美術館の庭につくっているいろいろな青いモノで飾りました。

この大きな巣は屋外で制作し、全長は6mくらい、こどもがかがんで通れるくらいの高さでした。最後にこどもたちとスタッフはみんな鳥に変装してパーティーを開いて鳥の巣の完成を祝いました。



11/12 朝 美術館前庭にベニヤをしき、制作場所には板段ボールをしいた。骨組みとなるタル木を運ぶ

11/12 午前 世界のいろいろな鳥のスライド上映会

自分鳥のくちばしをつくる

タル木で鳥の巣の骨組みをつくり、色を塗る

午後 木の枝を鳥の巣に飾る

いろいろな形を切り抜いて色を塗ったり、布を染め、ひも状の粘土で形をつくり、水色の石膏を流し込む

11/13 午前 石膏を鳥の巣につるす

家から集めてきた青いものを巣に飾る

午後 自分になりたい鳥の翼をつくる

鳥に変装し、顔や体に化粧をする

翼とくちばしをつけ、鳥の巣の中をくぐりぬける

鳥の巣トンネルは、2週間美術館前庭に展示した

素材&表現のパレット

ワークショップ 青いガラスのレリーフ

— 熱くて冷たい素材 —

講師 伊藤 孚（多摩美術大学教授・ガラス作家）

アシスタント 寺田光晴

開催日時 11月23日(水) 26日(土) 27日(日) 12月4日(日)

10:00~16:30

会場 アトリエB

対象・定員 一般 20名

陶芸窯を使って、キャストイングという技法で青いガラスのオブジェを制作しました。ガラスの造形の中でも、「吹きガラス」はよく知られた技法のひとつです。また、今回おこなったキャストイングもよくおこなわれるガラスの技法のひとつです。キャストイングは陶芸窯と同じような窯で制作されるので、キャストイングであれば、当館でガラスの講座を開催することが可能になりました。

ワークショップの大まかな流れは次の通りです。まず、粘土で原型をつくり、耐火石膏で型取りします。原型の粘土をかき取り、青いガラスのカレットをこの中に置き、陶芸窯で熱を加え、ガラスを溶かし、型に流し入れます。その後、温度を下げ、ガラスをゆっくりと冷ましてゆきます。この除冷にはおよそ4日間かかりました。熱が冷めたら、石膏型を壊し、中の作品を取り出して研磨しました。

今回は陶芸窯の大きさから作品の大きさを逆算し、1個あたりの最大サイズは 22cm×22cm 厚さ 5 cm でした。



10月頃 溶けた青いガラスを、金属の型に流し込み原料となる 1 個あたり 5 cm 角のガラスのカレット 120kg をつくる

11/23 午前 スライドによる講義

午後 粘土原型づくり

11/26 午前 粘土原型づくり

午後 木枠に石膏を流し込む

11/27 午前 ガラスの体積を計算し、石膏型の中へカレットを置く

午後 陶芸窯の中へ作品を設置

陶芸窯に電源を入れ、ガラスを溶かし、除冷する

12/4 午前 陶芸窯の中から作品を取り出す・石膏型を割る

午後 研磨

素材&表現のパレット

ワークショップ プルシャンプルーはじめて物語

—青い人工顔料—

講師 植木誠一郎（ホルベイン工業㈱研究室長）

アシスタント 山田りえ

開催日時 10月22日(土) 23日(日) 10:00~16:30

会場 アトリエB

対象・定員 高校生以上 20名

18世紀はじめ、プロシアで発明された世界初の人工顔料、プルシャンプルー。この顔料は、ヨーロッパで絵具として使われていました。その後プルシャンプルーは、江戸時代の日本において、「べろ藍」「べろ」などと呼ばれ浮世絵版画で大流行した青い色になりました。葛飾北斎や安藤広重の作品にもたくさんの「べろ藍」が用いられています。

プルシャンプルーの成分は、フェロシアン化第二鉄カリというものです。このワークショップでは、プルシャンプルーを直接法と間接法という2種類の方法で製作しました。プルシャンプルーの制作にはあまり時間がかかりませんが、ろ過、水洗、乾燥は時間を必要とします。水洗が足りないと不純物が残っていたりするので、時間の許す限り何度も水洗いをおこないました。

最後には、できあがったプルシャンプルーの顔料をメディウムと練り合わせ、パステルと水彩絵具も製作しました。



12/3 午前 講義とスライド「プルシャンプルーが使われている絵画作品について」

午後 直接法によるプルシャンプルーの製作

間接法によるプルシャンプルーの製作

12/4 午前 講義

午後 絵具づくり



素材&表現のパレット

ワークショップフレスコ画番外編

街の中のフレスコ画探索ツアー

リーダー 端山聡子（当館学芸員）

アシスタント 村尾佳洲子

開催日時 12月3日(土) 13:00~16:30

対象・定員 高校生以上 20人

ワークショップフレスコ画の番外編として、フレスコ画鑑賞ツアーを開催し、建物の壁面や天井に描かれているフレスコ画を見てまわりました。公共建築物にもずいぶんフレスコ画は描かれていますから、現代作家の手によるフレスコ画作品は、いくつも見ることが出来ます。今回はその中から5人の作家の作品を見て回りました。

今回のツアーでは、古い時代ではイタリアでフレスコ画を学んだ長谷川路可をはじめ、4人の現代作家のフレスコ画を見て回りました。

フレスコ画探索ツアースケジュール () 内は作家名



13:00

喜多見カトリック教会（長谷川路可）

↓

14:30

東京芸術劇場（絹谷幸二）

↓

15:00

地下鉄南北線駒込駅ふれあいコーナー（三野哲二）

↓

15:30

飯野歯科医院（丹羽洋介）

↓

16:30

玉川高島屋南館1F（大野 彩）



ワークショップ陶芸 成形から釉掛けまで

手捻りで作品を作り、素焼きをした後、釉薬を掛け窯に詰めるまでの作業を行った。初心者を対象にした陶芸のため、成形は最も基本となる手法を用い、釉掛けは浸し掛けを主体にして行った。窯詰めは、作業を分担して共同で行うようにした。

対 象 高校生以上

定 員 20名

開催日 5月14日(土) 5月21日(土) 6月4日(土)

時 間 13:00~16:45

場 所 美術館アトリエB

窯たき 6月9日(木) 4:00~17:00

窯だし・作品返却日 6月16日



ワークショップ陶芸 親子陶芸教室

動物を主人公にしたSTORYを作りテラコッタ粘土を使いそれを表現することを目的とした。夏休み中の親子を対象にした講座なので楽しく遊び心があるものとした。一家族3名まで、構成は自由とした。

対 象 小学生とその親

開催日 Aコース 7月23日(土)

Bコース 7月24日(日)

Cコース 7月30日(土)

Dコース 7月31日(日)

定 員 40家族(10家族×4コース)

時 間 13:00~16:45

場 所 美術館アトリエB

作品展示 8月20日~8月28日

展示会場 美術館アトリエA



ビデオ制作

湘南ゆかりの洋画家二見利節（1911－1976）を選び、その生涯や作品を紹介するオリジナル・ビデオを制作した。なおこのビデオは、平成7年度企画展「没後20年 二見利節展」で上映された。

二見利節－「在る」を求めて－（19分）

二見利節ルーフィング（6分）

ワークショップ オリジナルブックの制作

これまで制作してきたワークショップテキストを編集し直して、2冊の冊子を発行し、館内のミュージアムショップで販売した。

1 読むワークショップ1「植物で染める＋織る」

B6変形版 本文26頁

解 説 端山聡子

イラスト 山田りえ

2 読むワークショップ2「土や石から絵具をつくる」

B6変形版 本文19頁

解 説 端山聡子

イラスト 山田りえ

企画展



鳥海青児展



HIBINO SPECIAL 日比野克彦展



華と折り 近藤弘明展

企画展



ドイツ表現主義の版画展



宮崎 進 展



オランダ/ファン・アッペ美術館所蔵 変貌する20世紀絵画

市民アートギャラリー



保存・修復

平成6年度修復作品

絵画

No.	作者名	作品名	材質・技法	サイズ(cm)
1	松本 節	「由比ヶ浜」(仮題)	キャンバス・油彩	72.8×91.0
2	松本 節	「温室」	キャンバス・油彩	53.0×65.2
			以上の保存修復処置	森 直義
3	森田 勝	「柿」	キャンバス・油彩	32.0×41.0
4	原 精一	「赤布の裸婦」	キャンバス・油彩	45.5×53.0
5	井上三綱	「鷺」	キャンバス・油彩	159.6×126.9
6	鳥海青児	「石畳」	キャンバス・油彩	89.3×130.0
			以上の保存修復処置	黒江光彦
7	原 精一	「寝る裸婦」	紙・水彩	37.6×55.6
8	原 精一	版画・素描(仮番号 No.1~No.17)		
			以上の保存修復処置	森 京子

彫刻

No.	作者名	作品名	材質・技法	サイズ(cm)
1	柳原義達	「座る女」	ブロンズ	71.0×100.0×45.0
			以上の保存処置	南竹脇美術鋳造所
2	佐藤忠良	「緑」	ブロンズ	190.0×80.0×70.0
3	舟越保武	「海の顕彰碑 渚」	ブロンズ	194.0×60.0×50.0
			以上の保存処置	南山岸鋳金工房

収蔵庫虫害調査(虫害モニタリング)

収蔵作品を虫害・被害から守るために、開館年には収蔵庫燻蒸を行った。新たに収集した作品は、減圧燻蒸装置によって燻蒸をした後収蔵庫に収めるので、収蔵庫全体の燻蒸を行う必要性について慎重に検討した。その結果、収蔵庫内の虫害モニタリングを専門機関の委託業務で定期的の実施をし、害虫の発生や存在の事実を確認した後、燻蒸処置を実施するかどうかの判断を行う資料とした。

実施日	平成6年9月22日
調査報告	平成6年10月27日
調査対象	収蔵庫1 552.58㎡
	収蔵庫2 25.6㎡
	特別収蔵庫 24.19㎡
調査機関	財団法人 文化財虫害研究所

平成6年度 収蔵作品

■購入作品

分類	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	備考
日本画	今村紫紅	老松	1911	紙本着色	123.0×50.2	指定寄付：関口尚利氏
	今村紫紅	熱国之巻（小下絵）	1914頃	紙本着色	17.0×442.5	指定寄付：関口尚利氏
	今村紫紅	入る日・出る月	1915	紙本着色	各23.2×8.9	指定寄付：関口尚利氏
	岸田劉生	永日小品		紙本着色	136.9×34.4	
油彩画	鳥海青児	インカの石街		油彩・キャンバス	50.2×60.8	
	鳥海青児	アルゼリー港	1933	油彩・キャンバス	23.8×32.2	
	萬鐵五郎	風景(塀の見える風景)	1915	油彩・キャンバス	45.6×53.3	
	萬鐵五郎	雲と裸婦	1922頃	油彩・キャンバス	25.3×16.8	

■寄贈作品

分類	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	備考
油彩画	奥谷 博	地	1986	油彩・キャンバス	181.0×227.3	奥谷博氏寄贈
	金沢重治	風強き浜辺	1930	油彩・キャンバス	31.5×41.0	石井賀千子氏寄贈
	江添栄一郎	平塚海岸の日の出		油彩・キャンバス	33.5×45.7	江添栄一郎氏寄贈
素描	江添栄一郎	木造船所		コンテ・紙	38.3×54.4	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	平塚の海辺		コンテ・紙	37.5×54.6	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	平塚の海辺船と漁網		コンテ・紙	39.4×54.6	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	漁船		コンテ・紙	37.7×51.5	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	木造船所		コンテ・紙	39.3×53.2	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	磯の幸		コンテ・紙	39.6×54.5	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	平塚の海辺船と漁網		コンテ・紙	39.5×54.5	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	海の幸		コンテ・紙	61.1×48.8	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	平塚の海辺から富士を望む		コンテ・紙	54.2×38.7	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	砂丘上の船		鉛筆・紙	38.0×55.3	江添栄一郎氏寄贈
	江添栄一郎	平塚の海辺砂丘の船		鉛筆・紙	49.8×64.9	江添栄一郎氏寄贈
	鳥海青児	神戸風景		鉛筆・紙	11.2×18.0	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	椅子にかける裸婦		鉛筆・紙	30.6×22.5	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	裸婦		鉛筆・紙	25.7×12.5	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	腕をあげる裸婦		鉛筆・紙	21.5×14.9	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	風景		鉛筆・紙	28.2×40.1	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	今東光像		鉛筆・紙	25.1×16.4	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	椅子に坐る男		鉛筆・紙	31.2×24.1	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	横堀角次郎の昼寝		鉛筆・紙	15.0×22.5	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	森田勝像		鉛筆・紙	34.2×25.5	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	瓶子		鉛筆・紙	30.0×22.8	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	札幌郊外	1928	コンテ・紙	27.4×37.6	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	沖繩風景	1940	鉛筆・グアッシュ・紙	19.0×28.8	美川英吾氏寄贈
	鳥海青児	壁の修理	1958頃	鉛筆・クレパス・紙	25.3×35.8	美川英吾氏寄贈



今村紫紅 老松



今村紫紅 入る日 出る月



岸田劉生 永日小品



今村紫紅 熱国之巻（小下絵・部分）



鳥海青児 アルゼリー港



鳥海青児 インカの石街



萬鐵五郎 風景（塀の見える風景）



萬鐵五郎 雲と裸婦



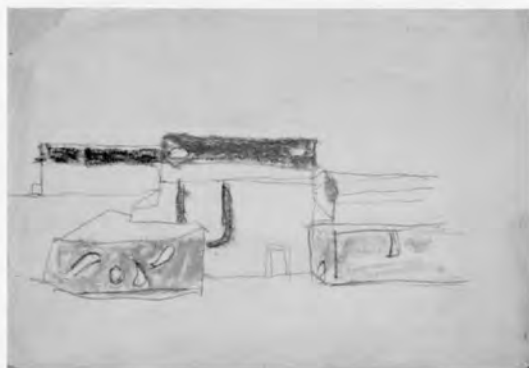
奥谷 博 地



金沢重治風強き浜辺



鳥海青児 沖縄風景



鳥海青児 壁の修理



鳥海青児 風景



江添栄一郎 木造船所

平成6年度 観 覧 者 数 (人)

月	開館 日数 (日)	企 画 展					常 設 展					合 計
		一 般	高大生	小中生	未就学	計	一 般	高大生	小中生	未就学	計	
4	26	3,298	101	69	51	3,519	2,870	85	72	50	3,077	6,596
5	26	6,552	421	319	252	7,544	5,344	303	290	174	6,111	13,655
6	24	10,659	1,451	1,679	547	14,336	7,685	850	1,126	315	9,976	24,312
7	22	2,375	0	334	0	2,709	947	34	324	44	1,349	4,058
8	26	2,879	157	474	89	3,599	2,758	214	882	123	3,977	7,576
9	25	4,095	113	199	79	4,486	3,234	127	228	75	3,664	8,150
10	25	2,560	101	583	81	3,325	2,260	104	450	98	2,912	6,237
11	26	2,899	192	58	71	3,220	2,449	157	57	56	2,719	5,939
12	23	1,158	81	125	31	1,395	1,292	83	137	38	1,550	2,945
1	23	2,505	134	615	65	3,319	2,143	108	460	47	2,758	6,077
2	23	2,853	128	202	84	3,267	2,851	114	208	80	3,253	6,520
3	27	0	0	0	0	0	804	57	80	41	982	982
合計	296	41,833	2,879	4,657	1,350	50,719	34,637	2,236	4,314	1,141	42,328	93,047

平成6年度 施 設 利 用 状 況

月	開館 日数 (日)	視 察 ・ 施 設 見 学						会議室等
		市 内		市 外		計		
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	
4	26	1	112	4	249	5	361	1
5	26	0	0	3	95	3	95	3
6	24	2	130	3	103	5	233	2
7	22	1	120	5	35	6	155	10
8	26	1	18	0	0	1	18	3
9	25	1	40	0	0	1	40	5
10	25	2	67	3	18	5	85	6
11	26	4	136	3	29	7	165	4
12	23	2	70	6	234	8	304	3
1	23	0	0	3	70	3	70	2
2	23	0	0	4	71	4	71	11
3	27	0	0	3	22	3	22	8
合計	296	14	693	37	926	51	1,619	58

平成6年度 学校団体観覧利用者数

		常 設 展			企 画 展 ・ 常 設 展		
		学校数	児童生徒数	教員数	学校数	児童生徒数	教員数
小学校	市内	4	202	12	8	550	21
	市外	0	0	0	1	103	4
中学校	市内	7	67	21	31	1,354	50
	市外	2	39	3	0	0	0
高 等 学 校		0	0	0	2	30	4
養 護 学 校		0	0	0	0	0	0
合 計		13校	308人	36人	42校	2,037人	79人

平成6年度 市民アートギャラリー利用状況

月	展覧会 開催日数 (日)	利用 団体数 (件)	入場者数 (人)	展 覧 会 名
4	24	5	6,072	ひらつか芸術展、第9回湘南市民美術展、パンの花・ルナ・フローラ展、井口恭恵個展、園の絵の会展
5	22	4	6,053	神奈川新聞社文化教室発表展、パッチワーク・キルト展、'94神奈美会員展、寂静会「想展」
6	22	7	8,523	第13回湘南写真会協会展、楽楽会作品展、茂田綾子水墨画展、タイル・アート展、第25回平塚書道協会展、若林薫切り絵展、小島泰展「詩と切り絵の世界」
7	14	1	3,579	第17回平塚市展
8	21	6	5,445	神奈川筆友書道連盟公募展、ひまわりの会展、本荘奏心教室発表展、第23回大門書悠会展、ヴィヴラヴィ・アートフォーラム展覧会、第19回湘南工芸家協会展
9	22	4	3,810	第25回神奈川現展、則天書道会展・全国七夕競書大会展、平塚美術協会展、アトリエ・パンピ作品展
10	22	4	9,373	第30回JRP写真展、MOA平塚児童作品展、平塚市幼少図工作品展、平塚市文化祭
11	22	4	4,218	第30回神奈川県美術展平塚巡回展、平塚市中学校絵画展、第6回なでしこ会展、藤村弘子ファミリー展
12	15	4	2,278	平塚市中学校美術教員展、秋田俊雄展、親と子による写生会作品展、井上絵画教室展
1	25	5	3,513	お散歩クローディ、コミックアート展、飯柴洋生油絵個展、針布るパッチワーク展、岡村工房陶芸教室展
2	19	6	5,624	ろうきんこども書初め展、あんりゆきヨーロッパフラワー岡野教室発表会展、波の子造形教室作品展、陶芸クラブ有雅陶20周年記念展示会、進和学園陶芸展、第14回なかよし作品展
3	22	6	3,460	第4回青陶会作品展、神奈川県学生書道展、ひらつか女流書道展、'95造形絵画作品展、第10回陶芸サロン展、焼かない陶芸創造の世界にパンアートの花を見る
合計	250	56	61,948	

第 17 回 平 塚 市 展

会 期 平成 6 年 7 月 16 日(土)～平成 6 年 7 月 31 日(日)

主 催 平塚市展委員会

主 管 平塚書道協会、湘南工芸家協会、平塚美術協会、平塚
写真連盟

後 援 平塚市、平塚市教育委員会、平塚市美術館、平塚文化
連盟、平塚商工会議所、TVK テレビ、SCN 湘南ケー
ブルネットワーク

会 場 平塚市美術館 展示室 I ・市民アートギャラリー

展示室 I に工芸、書、写真部門が、市民アートギャラリーに絵画
部門が展示された。

沿 革

1984年	5月	美術館建設研究委員会発足（庁内）
1985年	7月	平塚市美術館基本構想策定委員会設置 （1986年まで8回開催）
1986年	3月	「平塚市美術館基本構想策定」答申
1986年	4月	美術館建設基本計画策定連絡協議会設置（庁内）
1986年	9月	「平塚市美術館建設基本計画」策定
1988年	4月	美術館建設準備室設置
1989年	6月	美術館建設 起工
1990年	10月	美術館本体工事 竣工
1990年	12月	平塚市美術館条例 公布
1991年	3月	平塚市美術館 開館

運営・組織

美術館協議会

委員名簿

会 長	水越 謙	元教育委員
副会長	今村信夫	平塚美術協会会長、元市立金田小学校長
委 員	村重 寧	東京国立博物館企画課長（美術史家）
”	安田建一	中央公論美術出版社長（美術評論家）
”	平野 博	無形文化財育成担当参与、元美術館基本構 想策定委員
”	水島英耀	平塚市文化連盟委員長、平塚市文化財保護 委員
”	武井徳一	前社会教育委員
”	芝山恵美子	元国際ソロプチミスト平塚会会長

協議会の開催

平成6年7月27日	（美術館研修室於） 1、平成6年度事業報告について 2、その他
平成7年3月15日	（美術館研修室於） 1、平成7年度事業計画について 2、その他
平成6年10月4日～5日	先進美術館の視察 ・茨城県近代美術館 ・水戸芸術館現代美術センター

組 織



職員名簿

館長	原田 實
美術館・博物館 担当参事	南里 宏
副 館 長	古谷 勇
主 幹	塩川 勝也
館長代理兼 管理係長	亀谷 幸蔵
管 理 係	添田 勝子
	高橋 秀夫
	高橋 美里
館長補佐兼 学芸係長	森田 英之
企画担当主査	岡部 幹彦
学 芸 係	小松崎拓男
	石渡 尚
	曾我 政弘
	鈴木 幹
	端山 聡子
	小池 光理

平成6年度

平塚市美術館年報

発行 平塚市美術館

〒254 平塚市西八幡1-3-3

Tel 0463 (35) 2111

印刷 ㈱興版印刷

Tel 0463 (32) 1899

平塚市新町7-15

平成8年3月31日発行